

フェリプレシン含有プロピトカインを用いた近位伝達麻酔法の有用性に関する研究

著者	新崎 巴月
学位名	博士(歯学)
学位授与機関	日本歯科大学
学位授与年度	2016
学位授与番号	甲第1134号
URL	http://id.nii.ac.jp/1102/00000788/



フェリプレシン含有プロピトカインを用いた近位伝達麻酔法の有用性に関する研究

新崎 巴月

論文内容の要旨

下顎の局所麻酔法において、近位伝達麻酔法(近位法)は従来の下顎孔伝達麻酔法(従来法)と比較して神経損傷や麻酔薬の血管内誤投与の危険性が低く、また麻酔薬のフェリプレシン-プロピトカイン(FP)はアドレナリン-リドカイン(AL)より循環器疾患患者に対する安全性が高いことが知られている。しかしFP近位法とAL従来法の比較検討は十分なされていない。そこで本研究では、ボランティア健康人の下顎を対象に、歯髄電気診断器を用いた疼痛閾値の測定により麻酔奏効率と作用時間を求め、さらに麻酔時の痛みを評価し以下の結果を得た。

- 1) 第一大臼歯の麻酔奏効率は、FP近位法とAL従来法に差を認めなかった。
- 2) 第一小臼歯の麻酔奏効率は、左側のFP近位法の15分で有意に低かったが、総合的にはFP近位法とAL従来法に差を認めなかった。
- 3) 側切歯の麻酔奏効率は、左側ではFP近位法の5分、15分で有意に低かったが、総合的にはFP近位法とAL従来法に差を認めなかった。
- 4) 作用時間については、FP近位法が有意に長かった。
- 5) 麻酔時の痛みについては、FP近位法が有意に低かった。

論文審査の要旨

伝達麻酔近位法は従来法に比較して手技的に安全性が高く、麻酔効果も差がないといわれている。一方、浸潤麻酔では循環器系合併症患者に頻用されているFPを伝達麻酔に用いた報告は少なく、近位法で行った詳細な研究はみられない。本研究ではFP近位法による麻酔効果について、奏効率、麻酔効果、麻酔時の疼痛について従来法と差がないことを明らかにしている。これらの知見は下顎の麻酔法の選択に有用な新たな示唆を与えるものである。以上は、歯学に寄与するところが大きく、博士(歯学)の学位に値するものと審査する。

主査 又賀 泉
副査 佐藤 巖
副査 今井 敏夫

最終試験の結果の要旨

新崎巴月に対する最終試験は、主査 又賀 泉教授、副査 佐藤 巖教授、副査 今井 敏夫教授によって、主論文を中心とする諸事項について口頭試問が行われ、優秀な成績で合格した。